

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月15日現在

機関番号：37125

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2011～2012

課題番号：23890244

研究課題名（和文）

有職糖尿病患者が編み出したセルフケアの方略を活用した患者教育方法の検討

研究課題名（英文）Consideration of patient education methods using practical self-care strategies devised by worker with diabetes

研究代表者

中尾 友美（NAKAO TOMOMI）

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：90609661

研究成果の概要（和文）：質問紙とインタビュー調査を実施した。対象者は男性 61 名、女性 20 名の合計 81 名、平均年齢は  $53.1 \pm 10.2$ 、平均 HbA1c(NGSP)は  $7.4 \pm 1.0$  であった。セルフケアの実施状況は、薬物療法に比べ食事・運動療法の実施日数が少なかった。また、最も実施困難なものは運動療法であると返答する割合が高かった。仕事とセルフケアの両立における困難は、食事会、ストレス、工作中的の服薬であり、それらの困難に対し、さまざまな工夫をしている様子も明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted by means of questionnaires and interviews to working men and women with diabetes. The 81 participants, 61 men and 20 women, were asked about their self-care activities. Their mean age and HbA1c were  $53.1 \pm 10.2$  and  $7.4 \pm 1.0$ , respectively. For self-care activities less days were performed on diet control and exercise compared with drug therapy. The higher percentage of participants responded that exercise was the most difficult type of self-care activities. Difficulties regarding the compatibility of working and self-care activities included taking a meal together, stress and taking medication at work. However, they also were found to carry out a variety of strategies to cope with these difficulties.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：看護学、糖尿病、セルフケア、有職者

## 1. 研究開始当初の背景

2 型糖尿病は、食事や運動といった生活習慣の関与が大きい。したがって、患者のセルフケアを促進する教育が大切になる。また、わが国の糖尿病患者は 40 歳以降に増えることより、壮年期糖尿病患者に対する教育は重

要課題である。

壮年期糖尿病患者の自己管理に関連する要因には、年齢や家族の支援に加え、仕事があり、仕事をする生活に対応した支援内容、つまり仕事とセルフケアの両立をどのように実施していくのかについて考慮する必要

がある。仕事とセルフケアの両立では、セルフケアより社会的役割を優先せざるを得ない状況があるため、負担感を感じる事が分かっている。また、研究代表者が実施した調査において、患者はセルフケアに伴う負担軽減策として、範囲を決めて逸脱行動をとることや、食べたいときは少し食べるなど、食事療法を時々休むという調整を取りながら血糖コントロールを維持している実態が明らかになった。

以上のことから、セルフケア行動に伴う負担を軽減しながら血糖値のコントロールをするために、患者は試行錯誤しながら独自の方略を編み出していることが予測される。多くの患者教育が行われるなか、望ましさの観点からは逸脱するものの、自己の意思で試行錯誤の末に“編み出した”もの、つまり患者自らが開発した取り組みを糖尿病患者教育に活かすという枠組みを持つものはあまりない。患者の経験知は患者自らの努力とその評価を通して、独自のセルフケア方略を生み出している可能性がある。その方略は、同様の有職糖尿病患者の療養に有効に働くことが推測され、患者教育に活用できるポテンシャルを予測させる。さらに、社会経済上重要な役割を担う有職者の疾病悪化と合併症予防は療養支援の急務の課題である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、有職糖尿病患者を対象に、仕事とセルフケアの両立のために患者自身が編み出す行動を明らかにし、その行動の患者教育における活用性について検討することであり、細項目を以下とした。

(1) 有職糖尿病患者のセルフケアの実態および仕事とセルフケアを両立させるために患者が編み出している行動を明らかにする。

(2) 患者が編み出している行動が仕事とセルフケアの両立を促進する患者教育に活用可能かどうかを検討する。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究対象者

総合病院に通院する有職2型糖尿病患者。

### (2) データ収集と方法

#### ①対象者の選定と研究の同意

関係部署の管理者に研究の趣旨と倫理的配慮に関して説明し了承を得た。診療録および主治医の情報をもとに、2型糖尿病患者のうち有職者を選択した。対象者には、研究者から文書を用いて調査の概要および倫理的配慮について説明をし、同意が得られた方に質問紙の記載を依頼し、記載終了後に短時間のインタビューを実施した。

#### ②調査内容

質問紙は、糖尿病に関するセルフケアと負担感とした。インタビューは、仕事とセ

ルフケアの両立における困難とその対処についてとした。

### a. 質問紙の内容

- PAID (Problem Area in Diabetes 糖尿病問題領域質問票日本語版 1999 石井) : ジョスリン糖尿病センターメンタルヘルスグループで作成された (Polonsky 1995) ものを日本語に翻訳したものである。質問は20項目からなり、得点範囲は20~100で、得点が高いほど負担感情が高いことを示している。
- SDSCA (The Summary of Diabetes Self-Care Activities Measure セルフケア行動評価尺度 2006 大徳) : 医療者から指示をされている食事・運動・薬物・血糖測定・フットケアについて、“7日間のうち何日守れましたか”という質問形式で回答を求めるものである。今回の調査では、食事・運動・薬物の項目を使用した。
- 自作の質問 : 仕事とセルフケアの両立における負担感について、「糖尿病は仕事に不利だと思うか」「健康よりも仕事を優先するか」「職場での糖尿病の公表」「職場で実施困難なセルフケア」についての質問項目を加えた。

### b. インタビュー内容

仕事とセルフケアの両立における困難の有無について質問し、困難があると返答した対象者に、具体的な内容と困難に対しどのような対策を講じているのかについて質問をした。その口述回答を研究者が書きとることによりデータ化した。

### ③倫理的配慮

大学および調査を実施する施設の倫理委員会に申請し承認を得た。対象者には、研究の趣旨と概要を文書と口頭で説明した後、研究参加は自由意思であること、不参加の場合でも提供される医療に影響はないこと、参加撤回の自由を説明し同意を得た。プライバシーに対する配慮として、データは無記名で取り扱い、アンケート番号と患者を連結させる対応表を厳重に管理した。

### ④分析方法

量的データには、記述統計、下位グループ分析を適用した。質的データは「仕事とセルフケアの両立に伴う困難とその対処」について抽出したものをカテゴリー化した。カテゴリー化されたものの意味を量的データと合わせて分析を行なった。

## 4. 研究成果

対象者は男性 61 名、女性 20 名の合計 81 名、平均年齢は  $53.1 \pm 10.2$ 、平均 HbA1c (NGSP) は  $7.4 \pm 1.0$ 、平均 PAID 得点は  $39.4 \pm 13.8$  で

あった(表1)。

セルフケアの実施状況は、薬物療法に比べ食事・運動療法の実施日数が少なかった。また、最も実施困難なものは運動療法であると返答する割合が45.9%と高かった(図1・2)。

	n	Overall
年齢	81	53.1±10.2
性別	81	
男性		61(75.3)
女性		20(24.7)
糖尿病歴	81	11.3±7.6
体重	81	71.9±13.6
HbAc	81	7.4±1.0
PAID	81	39.4±13.8
薬物療法	81	
薬剤使用無し		6(7.4)
内服薬		50(61.7)
インスリン		23(28.4)
その他		2(2.5)
雇用状況	81	
正社員(一般職員)		31(38.3)
正社員(管理職)		21(25.9)
時間契約社員		8(9.8)
自営業		9(11.2)
その他		12(14.8)
勤務時間	80	
8時間未満		17(21.3)
8時間以上10時間未満		49(61.3)
10時間以上		14(17.5)

度数(%)もしくは平均±SD

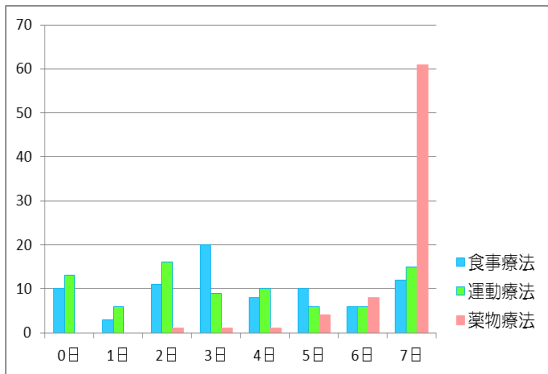


図1 1週間のセルフケア実施状況

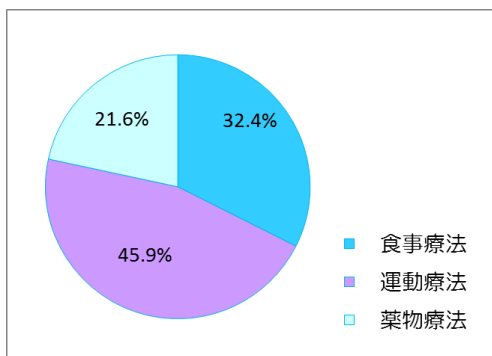


図2 最も困難なセルフケア

HbA1cが7.0%未満、7.0%以上で比較をすると、HbA1cが7.0%以上の群では、女性の割合が多く、罹病期間が長かった。また、運動療法、薬物療法の実施で2群に差はなかったが、食事療法の実施日数ではHbA1c7.0%以上の群が有意に少なかった(表2)。

インタビューによる仕事とセルフケアの両立における困難は、「食事会の際の食事療法」「食事時間のずれ」「運動が出来ない」「仕事によるストレス」「仕事での薬物療法」であった。また、その対処として、「食事会の際の食事療法」では、周囲に気付かれないように食事を減らす工夫や、忘年会などの主要な食事会のみ出席するといったように、周囲に食事会に参加している印象を与えながら、つき合いを減らすという対処をしていた。「食事時間のずれ」は、夕食が遅くなる場合が多く、食事のバランスが悪くても時間通りに食べるなどの対処をしていた。「運動が出来ない」ことに対しては、仕事に出来る運動を工夫したり、休日にまとめて運動を実施していた。「仕事によるストレス」には、一人になる時間を作ることや仕事以外に集中出来る趣味を持つという対処をしていた。「仕事での薬物療法」では、仕事が忙しいあまり、薬を忘れてしまうというものであり、医師に薬物の使用回数を減らす相談をしたり、常にポケットに薬を入れておくといった対処をしていた。

このように、患者は仕事とセルフケアの両立に伴う困難に対し、さまざまな工夫をしている様子が明らかになり、患者教育に活用出来る内容であると考えられる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

- ① 中尾友美、松尾ミヨ子、有職糖尿病患者における仕事とセルフケアの両立の実態、第7回日本慢性看護学会学術集会 2013年6月29日、兵庫医療大学(兵庫県)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中尾 友美 (NAKAO TOMOMI)  
 聖マリア学院大学・看護学部・講師  
 研究者番号: 90609661

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし

表2 HbA1cの値による比較				
	n	HbA1c<7.0 vs. HbA1c $\geq$ 7.0		
				p-value
<b>年齢</b> †	81	53.9 $\pm$ 10.4	52.7 $\pm$ 10.1	0.462
<b>性別</b> †	81			0.032
男性		26(89.7)	35(67.3)	
女性		3(10.3)	17(32.7)	
<b>糖尿病歴</b> †	81	8.8 $\pm$ 6.3	12.8 $\pm$ 8.0	0.005
<b>体重</b> *	81	71.9 $\pm$ 14.0	71.9 $\pm$ 13.4	0.998
<b>PAID</b>	81	37.2 $\pm$ 13.5	40.62 $\pm$ 13.9	0.255
<b>薬物療法</b> †	81			0.090
薬剤使用無し		3(10.3)	3(5.8)	
内服薬		22(75.9)	28(53.8)	
インスリン		4(13.8)	19(36.5)	
その他		0	2(3.8)	
<b>雇用状況</b> †	81			0.656
正社員(一般職員)		11(37.9)	20(38.5)	
正社員(管理職)		10(34.5)	11(21.2)	
時間契約社員		2(6.8)	6(11.5)	
自営業		2(6.9)	7(13.5)	
その他		4(13.8)	8(15.4)	
<b>勤務時間</b> †	80			0.763
8時間未満		7(25)	10(19.2)	
8時間以上10時間未満		17(60.7)	32(61.5)	
10時間以上		4(14.3)	10(19.2)	
<b>セルフケア実施状況</b> †				
1週間の食事療法実施状況	80	4.3 $\pm$ 2.1	3.2 $\pm$ 2.2	0.028
1週間の運動療法実施状況	81	3.2 $\pm$ 2.4	3.5 $\pm$ 2.5	0.622
1週間の薬物療法実施状況	76	6.6 $\pm$ 0.9	6.7 $\pm$ 1.0	0.544
<b>セルフケアの協力者の有無</b> †	81			0.461
協力者あり		18(62.1)	37(71.2)	
協力者なし		11(37.9)	15(28.8)	
<b>最も実施困難な治療</b> †	74			0.720
食事療法		9(37.5)	15(30.0)	
運動療法		11(45.8)	23(46.0)	
薬物療法(インスリン含む)		4(16.7)	12(24.0)	
<b>仕事とセルフケアの優先順位</b> †	80			0.316
健康を優先		22(78.6)	35(67.3)	
仕事を優先		6(21.4)	17(32.7)	
<b>仕事への影響</b> †	81			0.914
糖尿病は仕事に不利だと思う		7(24.1)	12(23.1)	
糖尿病は仕事に関係ない		22(75.9)	40(76.9)	
<b>職場での病気の公表</b> †	81			0.150
している		3(10.3)	13(25.0)	
していない		26(89.7)	39(75.0)	

† X2検定. ‡ マンホイットニーU検定. \* t 検定

度数(%)もしくは平均値 $\pm$ SD				
-----------------------	--	--	--	--